



9月3～5日、伊那合同庁舎、長野県庁で今年度の『信州型事業仕分け』が行われました。今後の運営を巡って複数の議員から質問が集中しました。

9月定例会

84億7000万円余

補正予算などを可決

九月定例会は、9月21日に開会し、10月7日までの17日間の会期で開催されました。震災への対応、風評被害の払拭と急激な円高への対応のため策定された「長野県緊急経済活性化対策」などを盛り込んだ84億7733万2000円の一般会計補正予算案等の知事提出議案、議員提出議案が可決されました。

○震災への対応
 《長野県北部・中部の地震への対応》
 産物の安全性PR、外国人旅行者の誘客促進など原発事故に伴う風評被害対策。
 《製造業の海外流出防止等のため、ものづくり産業応援助成金制度を拡充するほか、既決予算を活用し中小企業者の資金繰りを応援。》
 《顕在化した社会課題ニーズへの対応》
 災害時の緊急輸送路や砂防・治山施設の整備など防災・減災対策を進めるとともに、生活に密着した道路や学校施設、文化施設などの維持修繕工事等をきめ細かく実施。
 《商業施設、公共施設に授乳室やベビールームなど子育てのための設備を充実。》
 《失業者、障がい者、外国籍県民など社会的に弱い立場の方々への支援を充実。》
 《雇用創出基金を活用し、

県政対話集会を開催

9月12日塩尻市において、改革・新風が主催する今年度初の県政対話集会を開催しました。会場となった市交流センター「えんぱーく」には約60名の市民にお集まりいただき、県政に対して、様々な意見や要望が出され、この日、出された要望の中から「障害者スポーツ施設を中南信に開設について」と「県の手話通訳業務嘱託職員の待遇改善について」塩尻市区選出の続木幹夫県議が9月定例会議一般会計で、早速質問いたしました。以下、この日、出された主な意見、要望は次の通り。

主な意見・要望

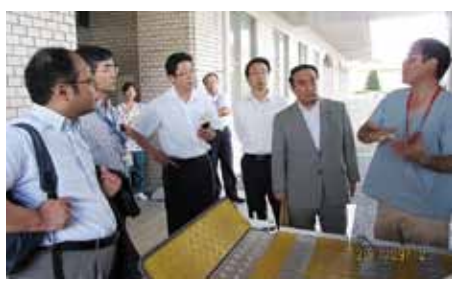
■長野市には障害者専用スポーツ施設「サンアップル」があるが中南信地域の障害者には遠く使用しにくいので中南信地域にも障害者専用スポーツ施設がほしい。
 ■知事が公契約条例の制定を公約していたが、進捗状況は？
 ■6月定例会議で改革・新風は所属県議によって原子力発電への見解が分かれたようだが、その後の対応は？
 ■一票の格差は正による県議選挙区の見直し作業はどうなっているのか。
 ■現在、リニア新幹線の駅の場所をどこにするのか議論されているが、当市にとっては東京や名古屋への在来線の強化の方が重要なのでその点についてしっかりと取り組んでいただきたい。また東南海地震が起きたら中央線が懸念されるので、その補完として信越線を利用した貨物輸送が必要と

なっている。したがって、今から信越線による貨物輸送を可能にしてほしい。
 ■これから農産物など食品の放射能検査に多くの線量計が必要になってくるので県で線量計を十分に備えてもらいたい。
 ■今、若者の自殺者が急増している今年全国で自殺者が5万人に届きそうな勢いで増えている。その対策を図ってほしい。



中信方面現地調査 9月12～13日

安曇野市豊科の県立こども病院、同三郷の松本広域森林組合と松本市笹賀の征矢野建材、塩尻市の井筒ワイン、セイコーエプソンの視察を行いました。県立こども病院では、各科の医療スタッフや事務の皆さんはもちろん、栄養科、臨床検査科、リハビリテーション科など、病院中のさまざまな職種の小児科領域の専門家集団で一人の患者の治療にあたっていている態勢がよく分りました。セイコーエプソンでは、最先端の技術開発について懇切丁寧な説明に耳を傾けました。



三重県議会・浜岡原子力発電所を視察 7月12～13日

『議会改革度』全国1位の三重県議会を調査し、議会定例会の招集回数や会期の見直し、広報のあり方やその他運営方法をなど議会改革について活発な意見交換がなされました。全国4位の長野県議会も、先進地の事例を参考に議会改革に積極的に取り組んでいきます。



5月に菅首相(当時)から稼働停止を指示された中部電力浜岡原子力発電所を視察しました。自然エネルギーへの転換という中長期的な課題、3,000人近い職員が働いている喫緊の雇用など重要な問題提起がされました。





通算18回目の一般質問

小島康晴の 県政レポート

VOL 18

飯田市高羽町3-1-7 TEL・FAX(0265)23-5388



9月県議会

今回は最終バッターで リニアとまちづくりなど質す

一般質問

県政報告第18号をお届けします。6月議会と9月議会の間には、二アの話が進みました。地域と長野県の将来に関わる課題が十分議会で論じるとまがありませんでした。議会基本条例に基づく活発な議員間討論という立場を踏まえて、あえて今回リニアの課題を取り上げました。また、今回は地元から大勢の皆様が傍聴においでいただき、勇気百倍で質問しました。

新しい公共支援・推進事業

【小島議員】今回の補正予算に4000万円ほど計上されている「新しい公共支援・推進事業」の目指すものは何か？今までのNPO活動を支援する事業とどのような違いがあるのか？

【企画部長】従来は主にNPO法人を対象に施策を行ってきたが、公益法人や地縁組織など幅広い団体を対象に、2年度にわたって総合的・集中的に支援する。

元気づくり支援金の拡充

【小島議員】使い勝手も多く、要望も多い。新年度においても、年度途中の募集など弾力的な運用も

含め、さらに拡充すべきと考えるが？

【総務部長】高い評価を受けており、充実に努めてきた。新年度予算に向けて、市町村や関係者の意見を聞き、所要額の確保に努めたい。

信州型事業仕分け

【小島議員】約50事業の仕分け対象事業への対応を含めた、全体の事業コストはどのくらいか？

【総務部長】事業費で530万円、担当職員等の人員費が約8000万円と試算している。

【小島議員】理事者や職員、そして、議員が「事業仕分け」の成果や経緯を活かして、県民目線や外部の視点も踏まえて、それぞれの責任を果たしていけば、今後は「仕分け」の手法を用いなくてもよいと考えるが？

【阿部知事】仕分け結果や仕分けにおける意見等を予算編成や事務事業の見直しに活かし、今後の行政運営や職員の意識改革にも役立てる。「公開性の確保」や「外部の視点」という考え方を重視しつつ、今後のあり方を検討したい。

【小島議員】自分がつくった予算に基づく事業を、

新たな交通ビジョンの策定

【小島議員】今回、1400万円ほど予算を計上し、交通ビジョン策定に踏み切るのどのような判断からか？また、これから着手して、いつまでにビジョンがまとまるのか？

【企画部長】現在のビジョンは10年以上前に策定したものであり、リニア開業などの新時代に向けて新たな交通ビジョンを策定したい。中南信の交通体系のあり方については先行して検討し、全体は24年度末までに策定したい。

【小島議員】新しい中期総合計画(5カ年計画)と今回提案の交通ビジョンは同時進行となる。新たなビジョンの目指すものは何か、中期総合計画との整合性は？

【阿部知事】交通ビジョン

リニア中央新幹線とまちづくり

外の人に見てもらいたい、それに予算を費やしたいということとは、かえって県民の理解を得られない新しいこと(仕分け)に取り組んだことは評価するが、これで「卒業」するよう強く求めたい。

私が委員長を務める「環境商工観光委員会」は、対象範囲が4部局と広いので、すべての委員が十分質疑ができるよう、心を砕いて進行しています。環境部関係では、自然エネルギーの導入について議論がされ、各地域における太陽光などの現状を把握し、目標の達成に向けた具体的な施策を構築することなど求めました。商工労働部関係では、緊急経済活性化対策について議論がされ、あらゆる支援策を講じ、力強く後押しすること求めました。また、

企業誘致については、誘致業種の絞り込みを行うなど、新たな取り組みを求める意見も出されました。

観光部関係では、県外からの学習旅行の訪問学校数及び児童生徒数が増加傾向にあり、引き続き関係機関と連携し、取り組むよう求めました。海外からの誘客についても、あらゆる手段を用いて本県の正確な情報を伝え、全力を挙げて取り組むよう強く要請しました。

なお、議会閉会中は、飯田下伊那や木曾地域、東北信地域、名古屋事務所と大阪事務所の現地調査も行いました。

にまちづくりを進めてきたので今回の結果は残念である。地元同盟会とJR東海との6項目の確認事項は、郊外型の駅に向かう、まさに生命線であると考えられる。このような経緯を踏まえ、今後本格化するリニア中央新幹線の整備に対する知事の基本的スタンスは？

【阿部知事】飯田下伊那において、リニア開業を見据えたまちづくりについて熱心に取り組まれてきたことに敬意を表する。6項目の確認事項は思いを共有し、リニア開業が中南信の発展の起爆剤となるよう取り組む。中間駅活用のため、県内各地からのアクセスができるよう交通体系の構築を図り、地域の活性化にも一緒に取り組む。

【小島議員】飯田市では十数年前からBルートを通り、現駅併設を念頭

委員会活動から

私が委員長を務める「環境商工観光委員会」は、対象範囲が4部局と広いので、すべての委員が十分質疑ができるよう、心を砕いて進行しています。環境部関係では、自然エネルギーの導入について議論がされ、各地域における太陽光などの現状を把握し、目標の達成に向けた具体的な施策を構築することなど求めました。商工労働部関係では、緊急経済活性化対策について議論がされ、あらゆる支援策を講じ、力強く後押しすること求めました。また、

企業誘致については、誘致業種の絞り込みを行うなど、新たな取り組みを求める意見も出されました。

観光部関係では、県外からの学習旅行の訪問学校数及び児童生徒数が増加傾向にあり、引き続き関係機関と連携し、取り組むよう求めました。海外からの誘客についても、あらゆる手段を用いて本県の正確な情報を伝え、全力を挙げて取り組むよう強く要請しました。

なお、議会閉会中は、飯田下伊那や木曾地域、東北信地域、名古屋事務所と大阪事務所の現地調査も行いました。

にまちづくりを進めてきたので今回の結果は残念である。地元同盟会とJR東海との6項目の確認事項は、郊外型の駅に向かう、まさに生命線であると考えられる。このような経緯を踏まえ、今後本格化するリニア中央新幹線の整備に対する知事の基本的スタンスは？

【阿部知事】飯田下伊那において、リニア開業を見据えたまちづくりについて熱心に取り組まれてきたことに敬意を表する。6項目の確認事項は思いを共有し、リニア開業が中南信の発展の起爆剤となるよう取り組む。中間駅活用のため、県内各地からのアクセスができるよう交通体系の構築を図り、地域の活性化にも一

緒に取り組む。

【小島議員】飯田市では十数年前からBルートを通り、現駅併設を念頭

【阿部知事】交通ビジョン

【小島議員】自分がつくった予算に基づく事業を、

【阿部知事】交通ビジョン

【小島議員】自分がつくった予算に基づく事業を、

【阿部知事】交通ビジョン

【小島議員】自分がつくった予算に基づく事業を、

【阿部知事】交通ビジョン

【小島議員】自分がつくった予算に基づく事業を、



視察先で挨拶



メガソーラー(川路)を見学



名古屋駅前のアンテナショップにて



仮保管も限界の焼却灰

満蒙開拓の歴史に学ぶ

「満蒙開拓平和記念館建設促進議員連盟」では、10月6日勉強会を行い、下伊那郡泰阜村に生まれ、昭和15年に一家7人で旧満州国へ渡り、昭和21年に日本人孤児400名を引率して日本へ引き揚げた、中島多鶴さん(86歳)の講演を聴きました。特に、日本の敗戦を知らないままの約1ヶ月の逃避生活は、子どもも関係

なく無差別に銃撃された様子、数多くの子どもが川に流されて来た様子など生々しいものでした。二度と不幸な現実を繰り返さないために、是非とも満蒙開拓平和記念館の建設をとせつせつと訴えられました。私たちはこれをしっかりと受け止める必要があります。



1時間起立のままで話す中島さん

みなさまのご提言やご要望をお寄せ下さい。

長野県議会 改革・新風

〒380-8570 長野市南長野字幅下692-2
 電話(026)232-0087 FAX(026)231-5592
 HP://www.kaikaku-shinpuu.com
 E-mail:info@kaikaku-shinpuu.com